

青果流通デジタル化



付加価値の高い青果を栽培する生産者と地元産の青果を店頭に出したい小売り業者を結びつける（イメージ）

イーサポートリンク

需要予測 食品ロス減らす

イーサポートリンクは、国内の青果流通のデジタル化に乗り出す。青果に関わる生産者や流通、小売りをつなげるプラットフォーム（基盤）を構築し、2021年に提供を始める。生産者の生産計画と小売りの需要予測を結びつけ、青果の付加価値を高めるとともに食品ロス低減を目指す。3年後に同基盤での取扱高260億円、売上高10億円を目指す、新たな事業の柱とする。

イーサポートリンクが構築する基盤は、生産者と小売り、流通の直接取引を支援する。付加価値の高い青果を栽培する生産者と、地元産の青果を店頭に出す差別化したい小売り業者を結びつけ、需要予測と生産計画を連動する。生産者の情報や栽培履歴の掲載、決済を基盤上で完結できる機能も搭載。受発注業務の効率化や競争力強化を目指すバリユーチエーンを構築する。

近年は生産者から市場や卸、仲卸を通じて小売りに到達する既存の安定供給ルートだけでなく、EC（電子商

栽培履歴・決済機能も

取引）サイトなど生産者と消費者を直接結びつける販売ルートも立ち上がってきている。生産や小売り、流通それぞれの業者の差別化ニーズを同基盤で取り込む。

同社は農業のデジタル化を進める「アグリテック」ではなく、流通のデジタル化を進める企業。これまで、バナナやアボカドなど輸入品のサプライチェーンを実現するシステムや、大手小売業の受発注や請求などの取引データを企業間で自動化する電子データ交換（EDI）システムを構築してきた。これらのノウハウを活用し、国内青果物流を支援する基盤を提供し、事業の第三の柱に育てる。